

(9) エンジンの調整



注意

- ・ エンジンの調整を誤ると、エンジンの最高回転速度が許容値を超え、エンジンが破損する恐れがあります。高速回転中のエンジン破損は、破片によって重大事故を招く危険があります。
- ・ 調整する場合は34ページ、燃料ニードルの調整手順に従って調整してください。
- ・ スロットルレバーから指を離した後もソーチェンが回り続ける状態は危険です。
下記要領でアイドル調整スクリュを再調整しても直らない場合は、スロットルレバーの作動不良やクラッチ故障の可能性がありますので、お買上げ店に点検修理を依頼してください。

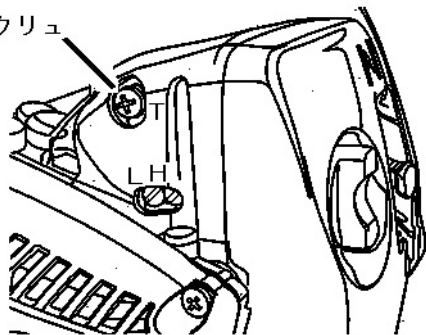
エンジンは工場出荷時に調整されていますが、運転条件（エンジンのなじみ具合、空気密度の変化等）により再調整が必要となる場合があります。

エンジンの調子が思わしくない場合の調整手順は次の通りですが、不慣れな方はできるだけお買上げ店に依頼してください。

アイドリング回転速度の調整手順

図38

アイドル調整 スクリュ



- ① トップハンドル左側後部にあるアイドル調整スクリュを付属のコンビボックススパナで回してください。右に回すと回転が上がり、左に回すと回転が下がります。
- ② エンジンをかけ2～3分、中速で暖機運転した後、スロットルレバーを戻して様子を見てください。このとき、ソーチェンが回り続けるようならアイドル調整スクリュを左に回してエンジン回転速度を下げてください。チェーンソーを傾けるとエンジンが止まってしまう場合は、アイドル調整スクリュを右に回して回転速度を上げてください。

燃料ニードルの調整手順

注意

- ・下記の調整は、エンジン技術のある方のみ行ってください。不慣れな方は、お買上げ店に依頼してください。
- ・燃料ニードルの調整を誤るとエンジン不調や故障（回転不安定、燃費増大、過熱による焼き付など）の原因になります。

- エアクリーナのエレメント、燃料フィルタのゴミ詰まりや、点火プラグ電極汚れと電極間隔、カット切れ味低下などの異常がないか確かめてください。
- ガイドバーとソーチェンを取付けた状態で燃料ニードルの調整を実施してください。ガイドバーとソーチェンがない状態でチェンソーを運転すると、回転部分がむき出しになり大変危険です。適切な燃料ニードルの調整をするには必ず、ガイドバー、ソーチェンを取付け、チェンケースで回転部をカバーした状態で行ってください。
- 燃料ニードルの調整をする前に2～3分、中速で暖機運転をしてください。
- 燃料ニードルを基準開度にセット後、低速ニードル(L)を調整し、最後に高速ニードル(H)を調整します。

燃料ニードル基準開度	
高速ニードル (H)	1回と1/4±1/4
低速ニードル (L)	1回と1/4±1/4

【燃料ニードル基準開度設定】

- ①ドライバを使用し、図39のニードル（L：低速、H：高速）を右に回し、止まった位置から左表の開度分、左に戻してください。

②【低速ニードル】

アイドル調整スクリューでアイドリング回転速度を調整後、低速運転時の回転安定性と加速性をチェックしてください。低速ニードルは、右に回すと混合気が薄くなり、左に回すと濃くなります。基準開度から許容範囲内で左右にニードルを回して、最適な位置にセットしてください。

- ③アイドリング状態で機体を傾け、エンジンが停止する場合は低速ニードル（L）を少し右に回すかアイドル調整スクリューを右に回してアイドリング回転速度を少し上げてください。

注意

低速ニードルを右に回し過ぎると加速が悪くなり、左に回し過ぎると機体を傾けたときにエンジンが停止しやすくなります。

④【高速ニードル】

低速の調整が完了したら、次はスロットルを全開にして高速回転の調子を見てください。高速ニードル(H)も、右に回すと混合気が薄くなり、左に回すと濃くなります。
基準開度から許容範囲内で左右にニードルを回して、最適な位置にセットしてください。

注意

高速ニードルを右に回し過ぎると加速が悪くなり、左に回し過ぎると燃料消費が増えます。

エンジン保護のため、切断しない時の全開空運転は15秒以上しないでください。調整しても不調な場合は“①の燃料ニードル基準開度設定”に従い、燃料ニードルの基準開度にセットした後、調整をやりなおしてください。

調整後に、念のためアイドリング回転が良好であるか確認してください。

